

中国経済の短期見通し

一党大会に向けて回復するかー

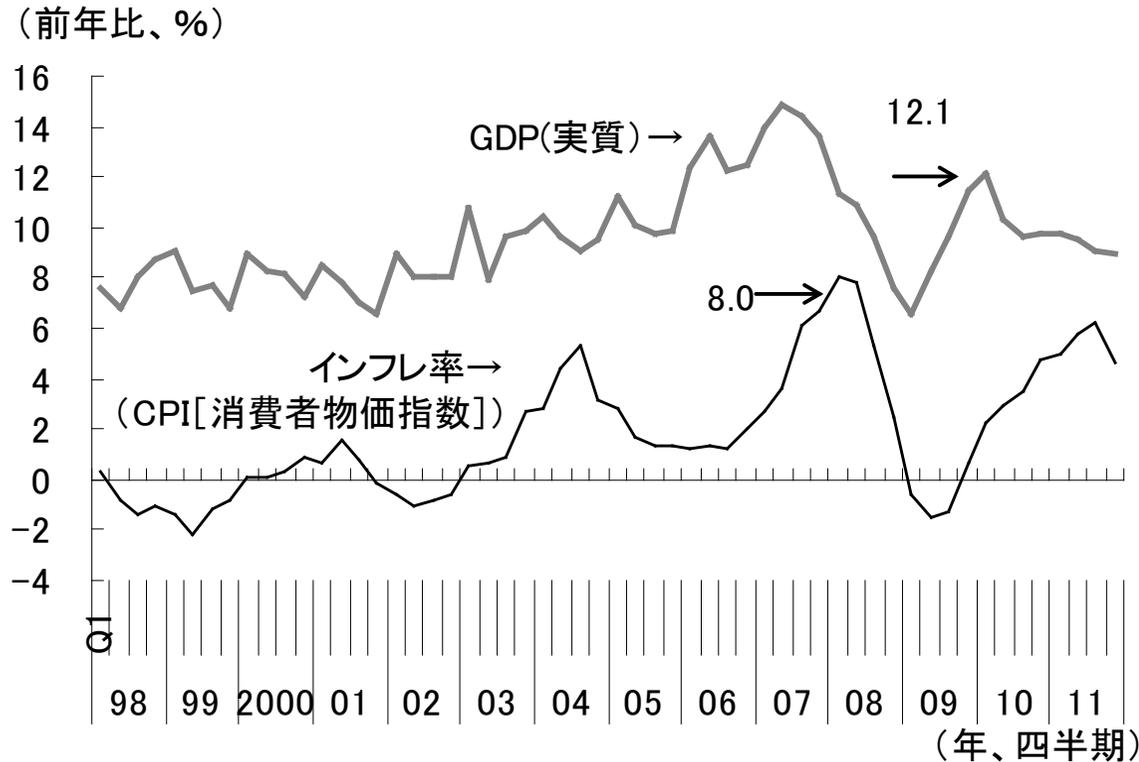
NOMURA



経済産業研究所 コンサルティングフェロー
野村資本市場研究所 シニアフェロー

関 志雄



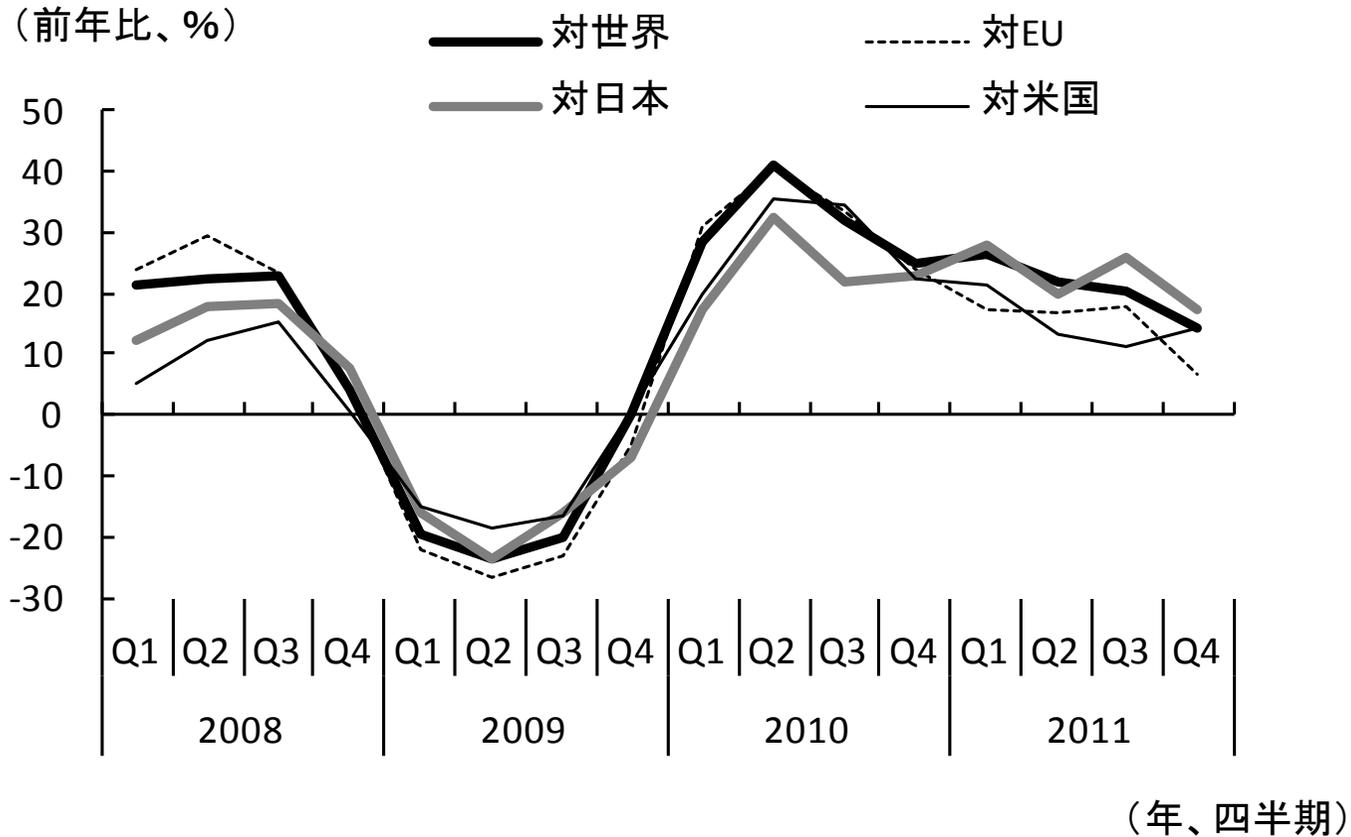


- 景気減速の背景
 - 薄れる景気刺激策の効果
 - 長引くヨーロッパ債務危機
 - 金融引き締めの影響

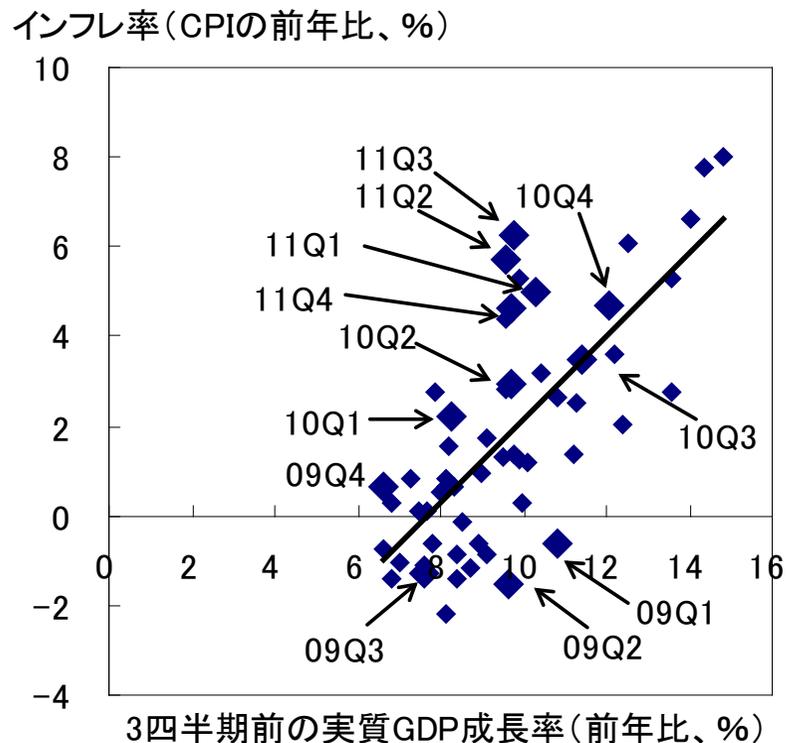
- 予想されるインフレ率の低下
 - インフレは景気の遅行指標
 - 食料価格上昇の沈静化
 - 引き締めの効果が鮮明に

(出所)CEICデータベースより資本市場研究所作成

対EUを中心に鮮明になった輸出の鈍化 ーリーマン・ショックと比べて影響が小さいー



(出所) CEICデータベースより野村資本市場研究所作成



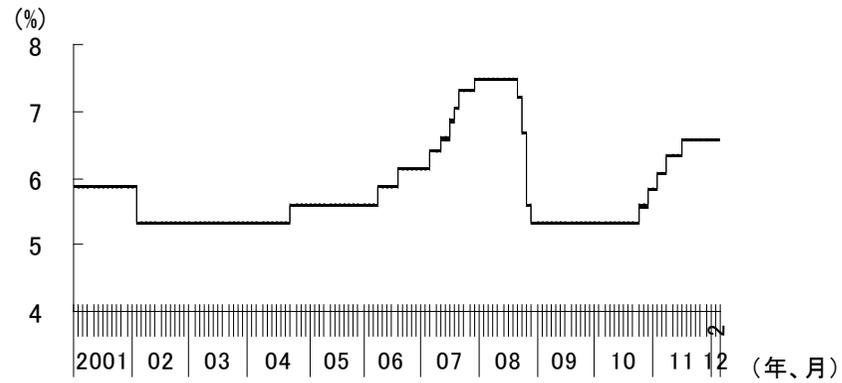
$$\text{インフレ率(CPI)} = -7.03 + 0.92 \times \text{3四半期前の実質GDP成長率} \quad (7.93)$$

()内はt-値 $\bar{R}^2 = 0.53$

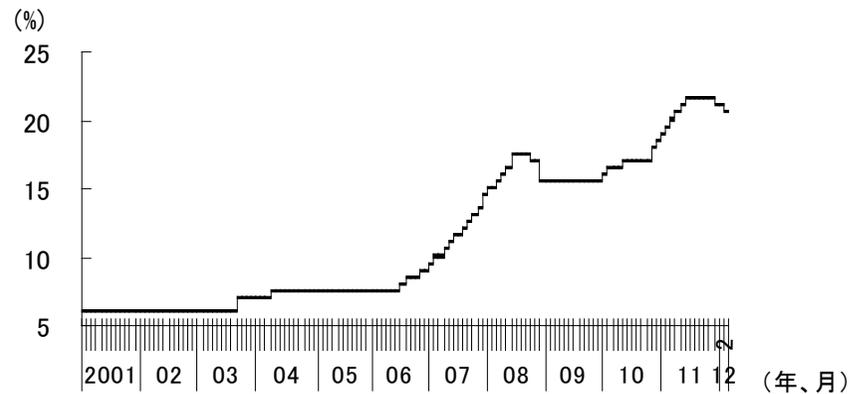
推計期間: 1998年第1四半期(Q1)~2011年第4四半期(Q4)

(出所) CEICデータベースにより野村資本市場研究所作成

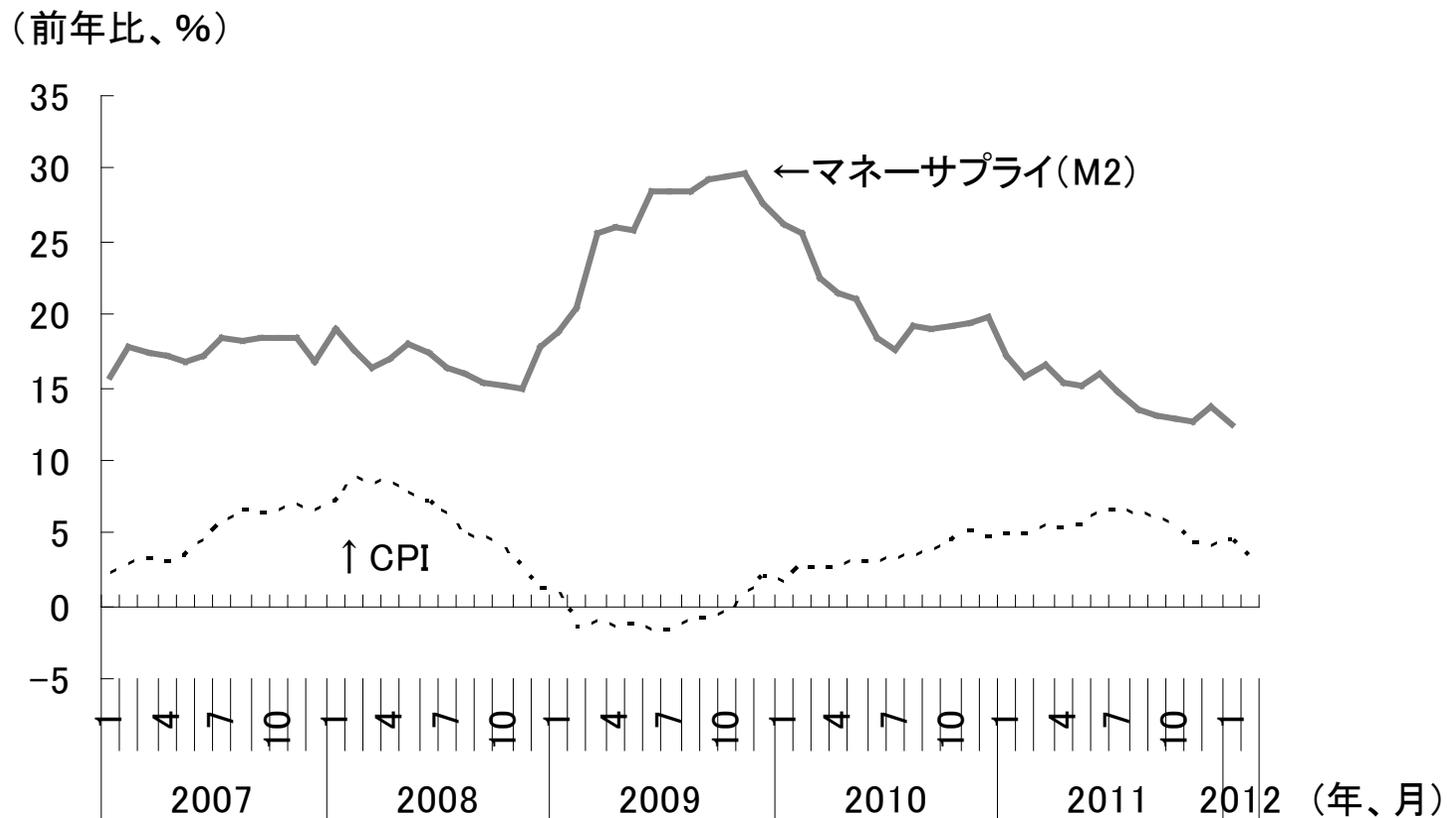
a) 貸出基準金利(1年物)の推移



b) 預金準備率(大手銀行)の推移

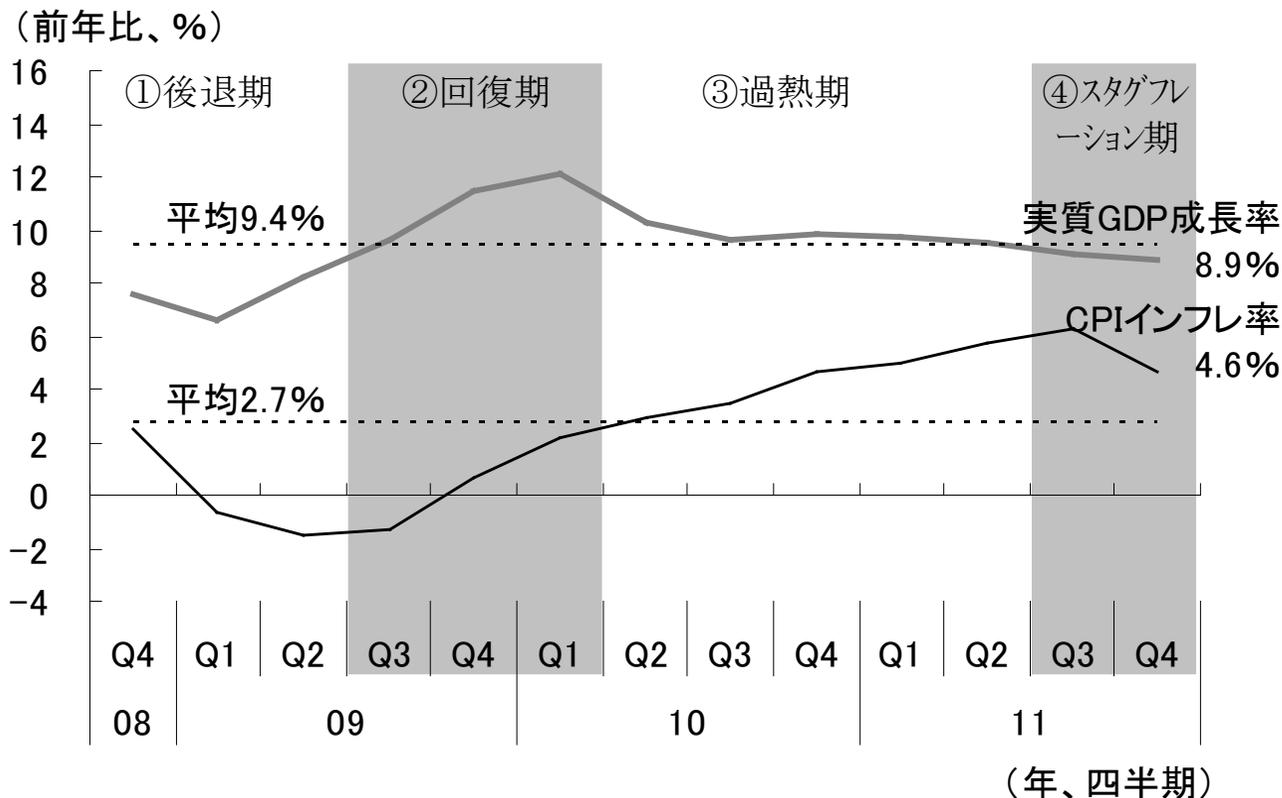


(出所) 中国人民銀行より野村資本市場研究所作成



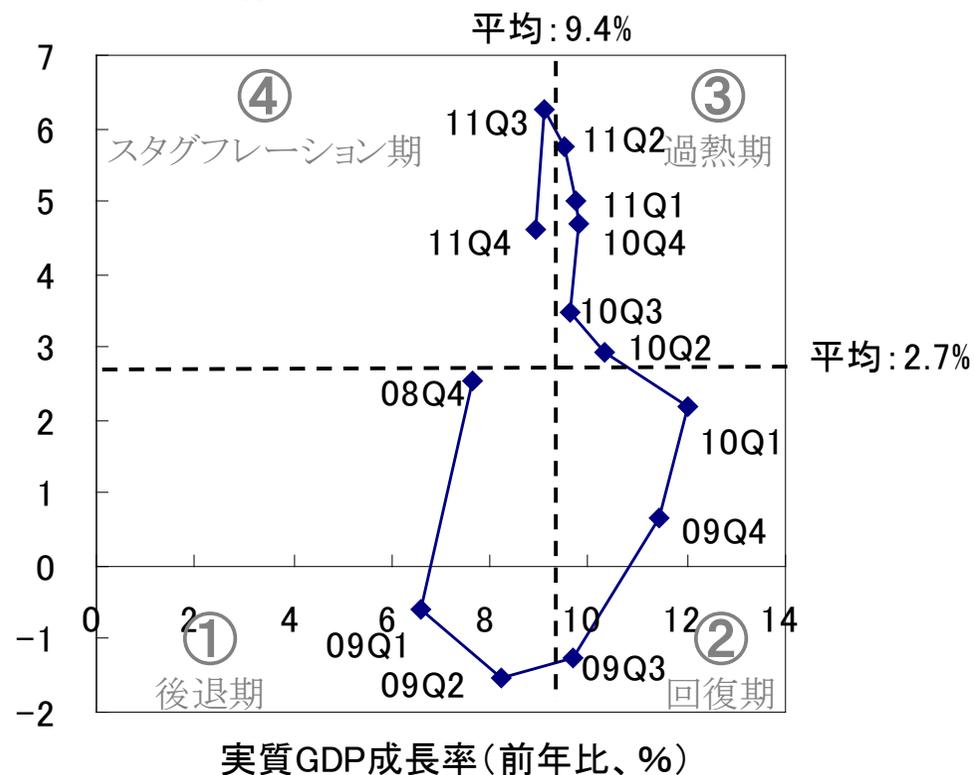
(出所) 中国国家统计局より野村資本市場研究所作成

リーマン・ショック以降の中国における景気循環 —GDP成長率とインフレ率の推移—



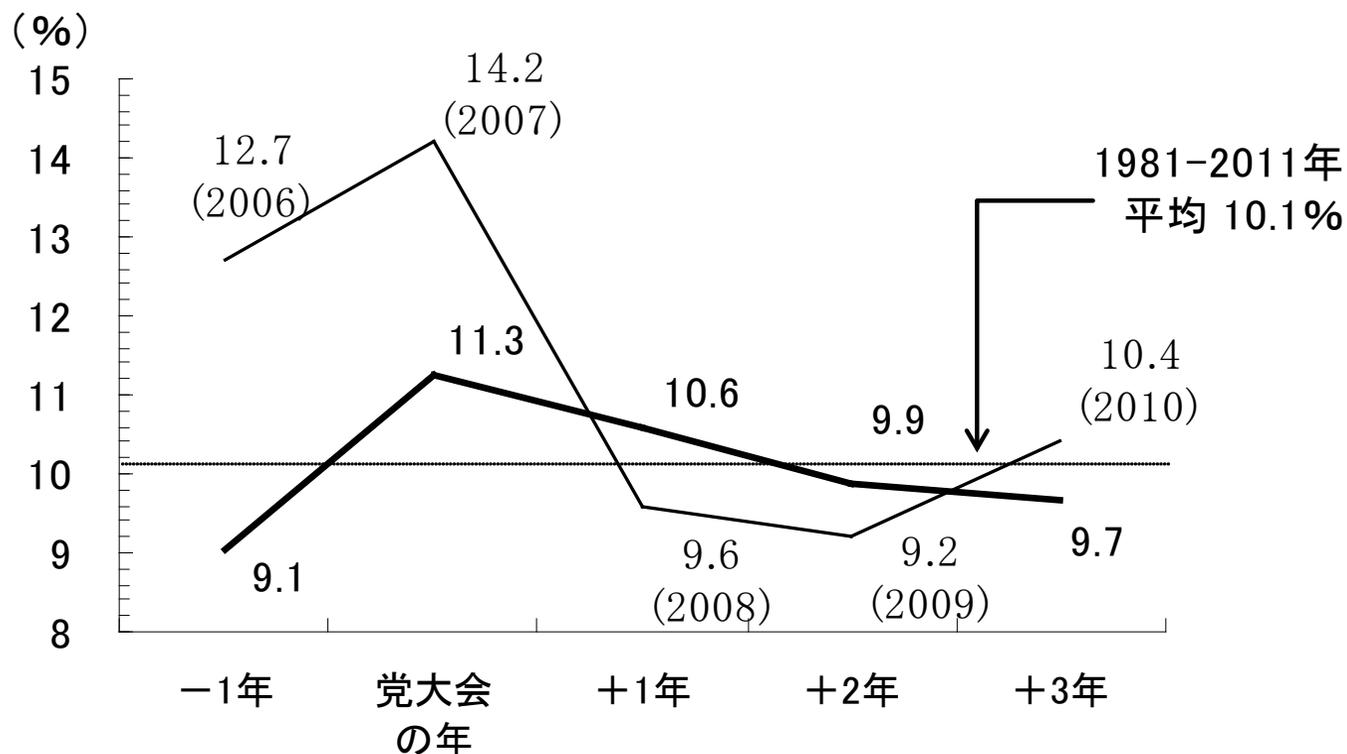
(注)①は低成長・低インフレ、②は高成長・低インフレ、③は高成長・高インフレ、④は低成長・高インフレ
(出所)CEICデータベースより野村資本市場研究所作成

CPIインフレ率(前年比、%)



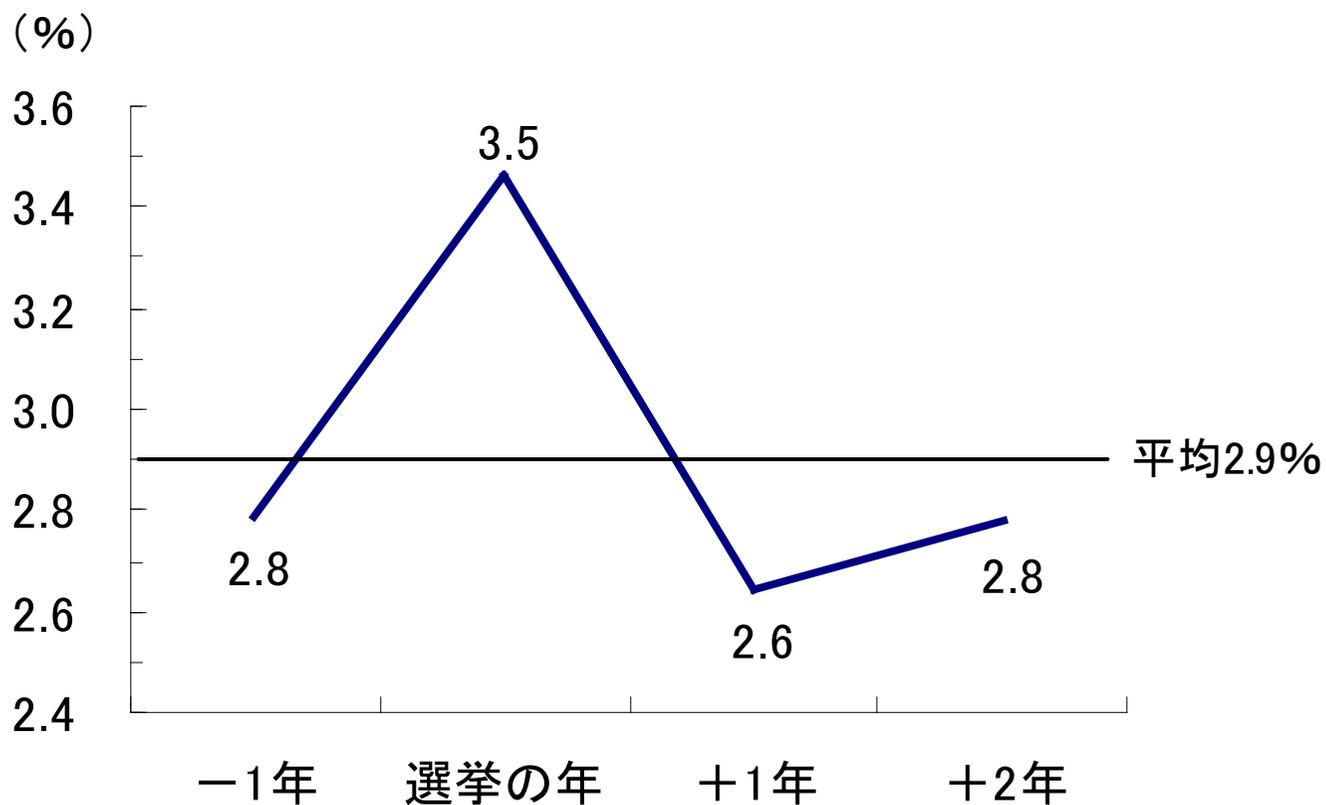
(注)①は低成長・低インフレ、②は高成長・低インフレ、③は高成長・高インフレ、④は低成長・高インフレ。
 景気は反時計回りで①→②→③→④→①という順で循環する。

(出所)CEICデータベースより野村資本市場研究所作成



(注) 実質GDP成長率。太線は該当年の平均(対象期間は1981年～2011年)。例えば、党大会の年は、1982年、1987年、1992年、1997年、2002年、2007年の平均。細線は2006年以降の各年の値。なお、党大会は5年毎に開催され、前回(第17回)は2007年10月に行われた。

(出所) 中国国家統計局より野村資本市場研究所作成



(注) 平均実質GDP成長率。対象期間は1976～2010年。

(出所) 米国商務省経済分析局 (US Bureau of Economic Analysis) より野村資本市場研究所作成



講師略歴

関志雄（かんしゆう）

経済産業研究所 コンサルティングフェロー

野村資本市場研究所 シニアフェロー

学歴・職歴

1957 香港生まれ
 1979 香港中文大学経済学科卒
 1986 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了、東京大学経済学博士（1996年）
 1986 香港上海銀行（Hong Kong & Shanghai Bank）入社、本社経済調査部エコノミスト
 1987 野村総合研究所入社、経済調査部主任研究員、経済調査部アジア調査室室長など
 2001 独立行政法人 経済産業研究所 上席研究員
 2004 野村資本市場研究所 シニアフェロー

日本政府委員

経済審議会21世紀世界経済委員会委員（1996-97年）
 財務省関税・外国為替等審議会専門委員（1997-99年、2003年-2010年）
 内閣府「日本21世紀ビジョン」に関する専門調査会 グローバル化WG委員（2004年）

主な著書・論文

『円圏の経済学』、日本経済新聞社、1995年（アジア・太平洋賞特別賞受賞）
 『日本人のための中国経済再入門』、東洋経済新報社、2002年
 『中国 未完の経済改革』、樊綱著・関志雄訳、岩波書店、2003年（アジア・太平洋賞特別賞受賞）
 『人民元切り上げ論争』、編著、東洋経済新報社、2004年
 『共存共栄の日中経済』、東洋経済新報社、2005年
 『中国経済革命最終章』、日本経済新聞社、2005年
 『中国経済のジレンマ』、筑摩書房、2005年
 『中国を動かす経済学者たち』、東洋経済新報社、2007年（第三回樫山純三賞受賞）
 『チャイナ・アズ・ナンバーワン』、東洋経済新報社、2009年



その他

NHK「ラジオあさいちばん」内「ビジネス展望」コーナーにレギュラー出演

ホームページ

「中国経済新論」(<http://www.rieti.go.jp/users/china-tr/jp/index.htm>)というホームページを主宰し、日本の読者向けに発信している。